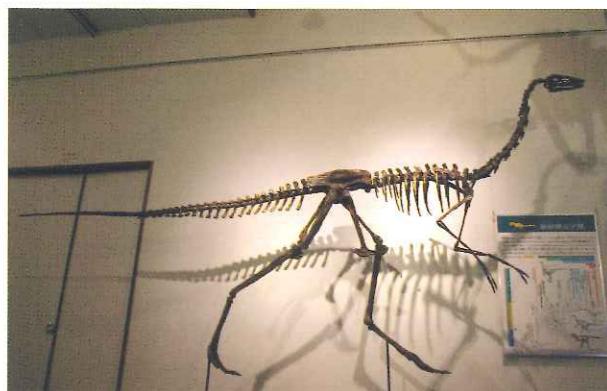


オルニトミムス エドモントンensis
Ornithomimus edmontonensis Sternberg, 1933

オルニトミムスのなかまは、別名ダチョウ恐竜とも言われ細身の体に長い足が特徴です。北アメリカ、アジア、アフリカなどから発見されていて、白亜紀の初め頃から終わりにかけて栄えた恐竜です。ティラノサウルスと同じ獣脚類のなかまです。ひざより下の部分が長く、速く走ることに適した体つきをしています。オルニトミムスのなかまは古いものの一部には歯がはえていましたが、ほとんどの種類は歯のないくちばし状のあごを持っていました。

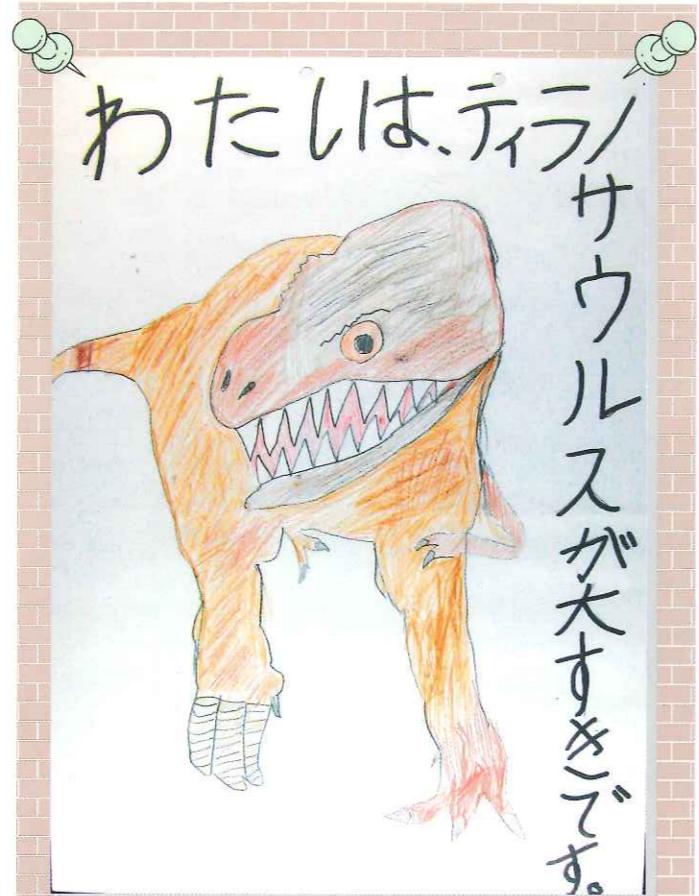
福井県立恐竜博物館の小林快次先生らの研究によって、**オルニトミムスのなかまが胃石（鳥の砂嚢などに含まれる食べ物の消化などに使われる小石）を持っていました**ことがわかり、現代の主に穀類を食べる鳥類のように、これを使って植物をすりつぶしていたと考えられるようになりました。

当館のオルニトミムスの全身骨格は、カナダのロイヤルオンタリオ博物館に所蔵されている標本(ROM851)のレプリカです。この標本は、最初、パークスによってストルティオミムス属の新種(*Struthiomimus currelli*)として報告されましたが、1年後にスタンバーグによって*Ornithomimus edmontonensis*と同じであることが指摘され、それ以来*Struthiomimus currelli*という名前はほとんど使われなくなりました。このように実際に同じ動物に違う名前が付けられてしまうこともあります。このような学名を同物異名(シノニム)といいます。このような場合は、特別な場合を除いて先に付けられた名前を有効とするというルールがあります。



オルニトミムスの全身骨格

ダイナソー
ギャラリー



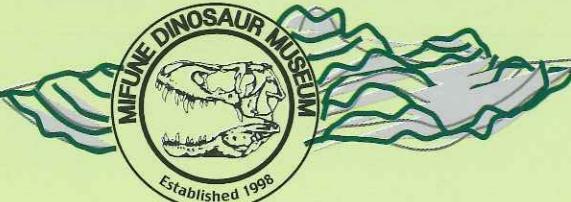
絵 御船町 平島春菜さん

〈ダイナソートピックスNo.5
恐竜○×クイズの答え〉
1〇、2×、3×、4〇、5×
ご応募ありがとうございました。貴重な御意見な
どもいただきました。大変おそくなりましたが、4
名の方にプレゼントをお送りしました。

御船町恐竜博物館情報誌
ダイナソートピックス No.7

■発行日/平成15年2月15日
■編集・発行/御船町恐竜博物館
〒861-3207 熊本県上益城郡御船町大字御船995-3
TEL (096) 282-4051 FAX (096) 282-4157

<http://www.mifunemuseum.jp/>
email/info@mifunemuseum.jp



印刷/株)トライ

Dinosaur Topics



学習の秋・学校と博物館！

平成14年度から小中学校では総合的な学習が本格的にスタートしました。

総合的な学習が目指すものは、「学習する力」や「考える力」をつけることで、博物館が社会教育施設として目指すことと一致しています。御船町恐竜博物館は、学校との連携による教育機能の強化を重要な課題のひとつとして捉えています。

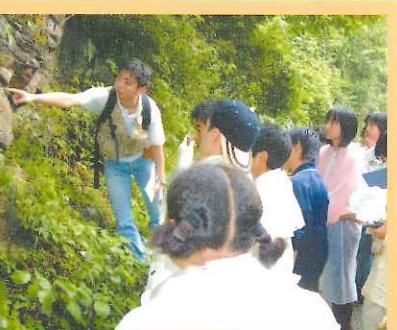
レプリカ作り

御船町立七瀧中学校

御船町立七瀧中学校では、1年生の総合的な学習の時間に、実際に校区で見られる地層の観察や化石の採集をおこない、地域の土地のつくりやその生い立ちについて調べたり、化石のレプリカをつくり、古生物に関する知識を深めたりする授業がおこなわれています。昨年は、この学習に博物館の職員も参加させていただきましたが、熱心に学習に取り組む生徒の皆さん姿がとても印象に残りました。

当館では展示や教育活動に活用するために、アメリカのモンタナ州でみつかった恐竜の部分骨格のレプリカを作る計画を持っています。今回の学習の発展として、このレプリカの共同製作を提案したところ、快く受け入れていただき、文化発表会の準備の時間を調整して製作時間を確保していただきました。作業は4日間という本格的なレプリカ製作としては短い日数でしたが、一つの骨の化石のレプリカをなんとか完成させることができました。

本来は、全員が同じように学習することが理想ですが、内容によっては一斉に活動できない場合もあります。今回のレプリカ製作も全員で実施するには、材料も設備も足りませんでした。毎日4~5人ずつ(しかし、担当の班は毎日)作業にあたりました。製作した化石はカモノハシリュウの中足骨で、大きさは約30センチメートルです。1時間程度で簡単につくることができるアンモナイトのレプリカとはちがい、本格的に製作するとともに大変な作業であることがわかります。このような活動は、レプリカが単なる「偽物」ではないことを理解することはもちろんのこと、観察力を身につけるのに大変役に立つ活動です。後日生徒のみなさんから博物館にいたいた手紙からは、今後もレプリカの製作を続け、いずれは自分たちの学校に恐竜骨格のレプリカを組み立てたいという意欲が伺われました。今後、このレプリカづくりを取り入れた学習が「体験」だけに終わらないように、復元をとおして恐竜の謎を解いていくような活動と組み合わせるなど、工夫も必要です。



博物館と
学校の連携

最近、博物館においては、教育機能の強化が重要な課題として位置づけられており、学校と博物館との連携の方法について盛んに研究や実践がおこなわれています。しかし、多くの博物館にはこれらに対応する人員の配置が必ずしも十分とは言えないという現実があります。しかし「人がいないからやらない」というのではなく、博物館は発展することにはできません。限られた人員でこれらの新しい取り組みを始めるためには、「研究」「教育」「資料収集」「展示・情報発信」という博物館活動のバランスをとりながら、それらがうまく連鎖していくような取り組みを考える必要があると思います。

学校も地域も自らの地域の博物館がもっと自分たちにとって役立つものに成長していくように、活用し、要望し、そして支えることが大切だと思います。遠慮はいりません。さあ博物館に電話しましょう。



発掘現場で
調査ボランティアとして活動する
千葉県立国府台高校のみなさん



で、予備として用意したイスもほとんど残らない状態でした。

宮田先生は、宇土半島や天草から数多くの哺乳類化石を発見され、現在も研究を継続しておられます。今回の講演会では、最新の情報も交えながら、熊本に関係した哺乳類化石のお話をいただきました。特に、宮田先生の発見によって、これまで日本では知られていなかった時代の動物たちの姿がよみがえることになり、その化石の正体をつきとめるため

に、アメリカや中国など世界中の博物館に保管されている化石を調べてまわるというお話はとても印象的でした。講演のあとは、宮田先生から哺乳類化石に関するクイズを出していただき、和やかな雰囲気のなかで講演会を終えることができました。終了後「哺乳類の歯のレプリカづくり」もあり、おみやげがたくさんの講演会でした。



盛り上がりつつあります

土曜日だ博物館に行こう！

毎回、この「土曜日だ博物館に行こう」には、化石が大好きな多くの子どもたちが集まっています。リピーターが約半分というのもこの行事の特徴です。「土曜日だ博物館に行こう」では、必ず化石のレプリカを作りますが、ただ単にレプリカをつくるだけではおもしろくありませんから、毎回いろいろな「指令」を用意しています。

「三角貝」では、化石と現生の貝がらを使って三角貝の特徴や栄えた時代について学習しました。「恐竜の歯」では、ひとりひとつずつ恐竜の歯の化石を渡して、「この歯の化石はどのなかまの恐竜のものだろう?」という課題に挑戦です。このような課題があると、展示してある恐竜の化石と比べて、自分なりにこたえを見つけだしてきます。終了後も、自分で作ったレプリカを手に展示室を見てまわったりして、今までとちがった視点で恐竜の歯の化石を見る能够になりました。

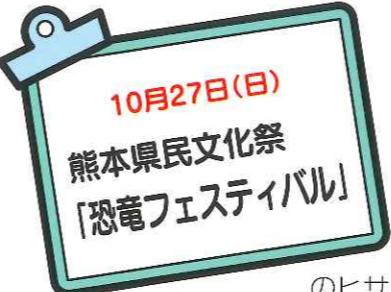
レプリカづくりは、シリコーン型へ石こうを流し込む作業から、着色へと進みますが、特に着色の時には、集中して取り組む子どもが多く、自分で納得がいくまで、こだわって色を塗る姿も見られます。



御船町恐竜博物館 e会員募集中！

御船町恐竜博物館では、行事案内や最新ニュースを電子メールで受け取ることができる、e会員を募集しております。現在会員数は210名を数えております。入会金、会費等は無料で、申込方法はとても簡単。下記アドレスまで、メールをお送りください。[email] info@mifunemuseum.jp

楽しい行事や
話題いっぱい！



第15回熊本県民文化祭inかみましきが10月26日～11月4日まで上益城郡内の6町村で開催されました。10月27日には御船町カルチャーセンターで「恐竜フェスティバル」が開催され、漫画家のヒサクニヒコ先生による「動物としての恐竜」と題した講演会がありました。先生のお話しにあわせて、プロジェクターでスクリーンに映し出される先生のペン先があつという間に今にも動き出しそうな恐竜を描きます。楽しい恐竜のお話しに時間がとても短く感じられました。

また、別の会場では恐竜ビデオ上映や「ペーパークラフト」「化石のレプリカづくり」「アンモナイトのバッジづくり」などもおこなわれました。町内及び県内外から300名以上の参加者があり大好評でした。長崎県から参加された方は「博物館で教えていただき(会



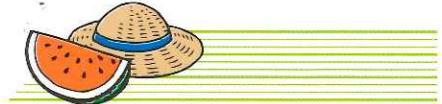
場に)来ました。孫が恐竜大好きで、いい体験ができてよかったです!と完成したペーパークラフトなど手にして喜んでおられました。



現在、恐竜博物館では益城町の津森小学校4年生の早田浩規君の夏休みの自由研究のポスターと採集した化石を展示中です。展示にあたっては早田浩規君、それに津森小学校の坂本文隆先生にたいへんお世話になりました。早田君は、3年生から化石をテーマとした夏休みの自由研究をはじめ、2年目となる今回の研究では、「みふね化石ひろば」と「益城町川内田付近」の貝の化石を比べています。それと、津森小学校の校区に分布している津森層という地層からヒシの化石も採集しています。



夏休みの自由研究



とを裏付ける大切な役割を持っていることだからです。

本やテレビやラジオなどからいろいろな情報があふれています。最近ではインターネットの普及で世界中の情報が簡単に集められるようになりました。しかし、これらの情報にはいろいろなものが含まれていて、決して「正解」ではないということは気にとめておく必要があります。情報の真偽を確かめてみると、推測される事が、事実であるかのように記述してあったり、最初の情報とはちがう形で伝わっていたりすることもあると思います。問題のこたえはだれかが教えてくれるものばかりではありません。集めた情報から「新しいこたえ」を創り出していくこともあります。

研究をすると、そこに発見があります。それは、新しい知識を創り出すことです。研究をした結果が「すでに知られていること」と同じ結果になったとしてもガッカリする必要はありません。それは、以前から言っていたことが、やはり確からしいというこ

ともあります。問題のこたえはだれかが教えてくれるものばかりではありません。集めた情報から「新しいこたえ」を創り出していくこともあります。

御船町恐竜博物館では、夏休みの自由研究についての相談なども受け付けています。どんどん活用してください。



「ダイナソートピックス」に記事を投稿してください！

御船町恐竜博物館が、「モノが陳列されているつまらない場所」にならないように、博物館に集う皆様といろいろな活動をおこなっていきたいと考えています。

博物館の活動にどんどん顔を出し、口を出し、自分たちの博物館として育ててもらえばと思っています。ダイナソートピックス編集室では、博物館に対する提言、話題提供、研究ノート、記事など広く募集しております。多数のご投稿お待ちしております。